

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立御園中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

授業のポイントを明確にしたことで、実験をする意義や操作方法について理解している生徒が増えた。話し合い活動が活発になったことで、自身の考えを表現したり、友人の考えに多く触れさせたりすることができた。

(2) 課題

どの学年も、観察・実験から、考察する力が低い。実験を多く取り入れつつ、生徒自身が行った実験結果から考察を行う機会を確保するなどして、思考・判断・表現の向上を図る。また、小テストやワークを通して、計算問題にも多く触れさせ、計算に対する苦手意識を払しょくする必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	知識・技能と主体的に学習に取り組む態度の正答率が目標値に達していない。思考・判断・表現はわずかに目標値を上回っている。		
第2学年	全観点が目標値に達していない。特に、知識・理解の問題の正答率が目標値を大幅に下回っている。	全観点が目標値にわずかに達していない。特に、知識の問題がとれていない。	
第3学年	全観点が目標値に大きく達していない。特に、知識・技能、思考・判断・表現の正答率が低い。	全観点が目標値に達していないが、主体的に学習に取り組む態度は、目標値にほぼ近づいた。学力上昇傾向が見られる。	全観点が目標値に大きく達していない。特に主体的に学習に取り組む態度が芳しくなく、理科嫌いな生徒が非常に多い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を5ポイント程度下回っている。生物分野の正答率が特に低く、基本的な知識が定着していない。	区の平均をわずかに上回っているが目標値には届いていない。実験計画をたてることが苦手な生徒が多い。	区の平均を5ポイント程度下回っている。日常生活との関連性を見いだせていない。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を3ポイント程度下回っている。分野によるばらつきが大きく、基礎の問題の正答率が低い。	区の平均をわずかに上回っているが、事象を説明したり、実験結果から考察したりする力が低い。	区の平均をわずかに上回っている。観察・実験の過程を理解し、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を4ポイント程度下回っている。 どの分野においても、基本的な知識が定着していない。	区の平均を4ポイント程度下回っている。 実験結果から考察をしたり、計算をしたりする力が低い。	区の平均と同程度である。 実験をする意義や操作方法について、理解している生徒が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎回の授業で、おさえないポイントを明確にしていく。既習事項を活用した授業を展開し、基本事項を確実に定着させる。	仮説実験の過程を明確にし、実験計画に見通しをもたせる。自ら実験を計画する時間を確保し、実験計画力を育む。	身近な事物・現象と学習内容を関連づけ、生徒の興味・関心を高める。 また、観察・実験を多く取り入れ、学習意欲の向上を図る。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎回の授業で、重要事項を明確にしていく。一つ一つの知識を確実に身につけさせる。また、授業内での練習問題や小テストを多く行い、確実な知識の定着を図る。	グループでの話し合いなどから自ら考える活動を多く行う。実験を積極的に行い、予想や実験結果からわかることを考察するなど自らの意見を表現する活動を多く行う。	身近な事物・現象と学習内容を関連づけ、生徒の興味・関心を高める。 また、観察・実験や動画教材などを活用して、学習意欲の向上を図る。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎・基本に重点をおく指導を行う。昨年度に引き続き、単元ごとに小テストを行い、復習プリントも活用し、確実な知識の定着を図る。	実験を昨年度以上に多く取り入れ、自らの実験結果をもとに、考察する時間を設ける。年度末には問題演習の時間を確保し、思考力の底上げを図る。	既習事項を活用した調べ学習を取り入れ、身近な問題を探究する力を養うとともに、理科を学ぶ有用性を伝えていく。